

1. 科目名 (単位数)	会計学 (2 単位)	3. 科目番号	SBMP2131						
2. 授業担当教員	古市 吉輝								
4. 授業形態	講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション (学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等) を伴ったものにする。	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係	『簿記』が履修済みであることが望ましい。								
7. 講義概要	近年の会計制度の状況を踏まえ、会計学の基礎的な理論を把握するのがこの授業の目的である。財務会計の目的は、会計の財務状況を投資家などの利害関係者に知らせるものであり、そのために、会計の基礎概念、財務諸表の作成ルール、現金、手形、商品取引、資金調達、収益と費用、決算手続等についても解説を加える。財務諸表の利用者 (債権者や株主などの利害関係者)、経営者の会計に関する行動などについても解説を加える。将来、就職した先や自分で立ち上げる事業所等の経営に役立てるようにする。								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個人商店や会社について、その財政状態や経営成績を表す財務諸表の読み方を知り、説明できる。 2. 収益と費用と測定して利益を計上するという過程の基礎にある会計理論を学び、説明できる。 3. 資産項目、負債項目、資本項目の課題と評価について理解し、説明できる。 4. 会計情報を活用した経営改善について理解し、説明できる。 								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	アサイメントやレポートについては、特に課さない。								
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 碓氷悟史・柴田寛幸 著『入門会計学テキスト<第 4 版>』中央経済社、2006。 【参考書】 伊藤邦雄 著『ゼミナール 現代会計入門<第 8 版>』日本経済新聞出版社、2010。								
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストの輪読を通じて、会計学の基礎知識が理解できているか。 2. レポート課題に対して的確に検討し、会計情報を活用した経営判断ができるようになってきているか。 3. 期末試験を通じて、会計用語等を理解し、説明できるようになっているか。 ○評定の方法 <table border="0"> <tr> <td>1. 授業への積極的参加</td> <td>総合点の 10%</td> </tr> <tr> <td>2. レポート</td> <td>総合点の 30%</td> </tr> <tr> <td>3. 期末試験</td> <td>総合点の 60%</td> </tr> </table>			1. 授業への積極的参加	総合点の 10%	2. レポート	総合点の 30%	3. 期末試験	総合点の 60%
1. 授業への積極的参加	総合点の 10%								
2. レポート	総合点の 30%								
3. 期末試験	総合点の 60%								
12. 受講生へのメッセージ	「会計とは、企業にとって過去に対する誤りなき判定者であり、現在に対する欠くべからざる指導者であり、将来に対する信ずべき助言者である」との格言からも分かるとおり、会計学の基礎知識こそ、組織活動の成果を科学的・客観的に評価できる最良の道具であることを理解してほしい。								
13. オフィスアワー	講義後に質問を受け付ける。分からないところを気軽に聞きに来てほしい。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第 1 回	オリエンテーション (講義概要の説明) 会社の意義	事前学習	日本の会社にはどのようなものがあるのか、会社には色々な形態があり、法律によって規定され、どのような決算書を作成しなければならないのかを理解しておく。						
		事後学習	決算書とは何であるかを認識すること。それぞれがどのような役割を持っているのかを、理解する。						
第 2 回	会計の基礎的考え方と開示	事前学習	儲けの状態と財産の状態は、どう表わされるかを理解できるようにする。						
		事後学習	実際の損益の状況と財政状態を表示することができるようにする。						
第 3 回	貸借対照表と損益計算書の仕組み	事前学習	貸借対照表と損益計算書の仕組みが理解できるようになること。						
		事後学習	貸借対照表と損益計算書の作成方法を練習し、作成できるようにする。						
第 4 回	企業会計の特徴と役割	事前学習	企業の会計を行う目的や基本的な考え方を認識することによって、会計の性格を理解する。						
		事後学習	企業会計の基本的な公準とは何か、制度会計の領域と会計学の学問領域を概観できるように、全体を把握できるようにする。併せて会計は誰のために行うのかを考える。						
第 5 回	財務会計の基礎と原則	事前学習	財務会計の基本的な目的を知っておく。						
		事後学習	企業の利害関係者を考え、彼らの必要とする会計情報の内容を把握できるようにする。						

第6回	一般原則 1 企業会計原則の意義	事前学習	企業会計原則の意義、とくに構成はどのようになっているかを知っておく。
		事後学習	真实性の原則についての考え方、および同原則の具体的な意味を理解できるようにする。
第7回	一般原則 2 簿記の原則	事前学習	正規の簿記の原則とは何であるかを、会計的に考えてみる。
		事後学習	帳簿作成の際の立証性、秩序性、網羅性、説明性について理解した上で、簿外資産と簿外負債との微妙な認識の違いを理解する。
第8回	一般原則 3 資本取引・損益取引区分の原則	事前学習	資本取引・損益取引区分の原則について、詳細に取り上げ、明瞭性の原則にも触れておく。
		事後学習	継続性の原則の意味合いを理解する。また保守主義の原則についてその考え方を十分理解できるようにする。
第9回	一般原則 4 保守主義の原則	事前学習	保守主義の原則をしっかりと理解しているかを復習する。
		事後学習	単一性の原則および重要性の原則について、しっかりと理解した上で、重要性の原則を学び、全体としての一般原則の内容の理解の総括とする。
第10回	損益計算書	事前学習	経営成績の計算と表示の原則に関わるのが、損益計算書であることを認識する。
		事後学習	損益計算書の具体的な作成方法をマスターできるようにする。
第11回	貸借対照表	事前学習	財政状態の計算・表示の仕方を認識する。
		事後学習	資産の認識原則、貸借対照表作成の原則についての、細部に亘る諸原則の考え方を理解し、実際に貸借対照表作成の練習問題を解けるようにする。
第12回	キャッシュフロー計算書	事前学習	キャッシュフロー計算書を作る目的について考える。そのためには営業・投資・財務活動におけるキャッシュフローを区分する。
		事後学習	3区分キャッシュフロー計算書の作り方を覚える。そして作成演習を行ってみる。
第13回	原価計算	事前学習	商業簿記と工業簿記の違いをまず理解する。
		事後学習	原価計算の目的、原価要素とは何か、製造原価報告書と損益計算書そして貸借対照表の関わりを認識する。
第14回	小テスト問題練習（第1回～第7回の範囲）	事前学習	教科書の小テスト第1回から第5回までの復習問題を解答する。
		事後学習	教科書の小テスト第1回から第5回までの復習問題を解説する。
第15回	小テスト問題練習（第8回～第11回の範囲）	事前学習	教科書の小テスト第6回から第11回までの復習問題を解答する。
		事後学習	教科書の小テスト第6回から第11回までの復習問題を解説する。
期末試験			